

北九州市介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査報告書

令和2年5月

北九州市保健福祉局介護保険課

目次

| | |
|-------------------|----|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| 1 調査の目的 | 1 |
| 2 調査対象者 | 1 |
| 3 調査件数 | 1 |
| 4 調査方法 | 1 |
| 5 調査項目 | 1 |
| 6 調査実施期間 | 1 |
| 7 回収状況 | 1 |
| 8 調査の企画・実施等 | 1 |
| 9 集計・分析上の注意事項 | 2 |
| 第2章 回答者の属性 | 3 |
| 1 性別 | 3 |
| 2 年齢 | 3 |
| 3 家族構成 | 4 |
| 4 暮らし向き | 4 |
| 第3章 評価項目別の結果 | 5 |
| 1 生活機能 | 5 |
| （1）運動機能の状況 | 5 |
| （2）口腔機能の状況 | 7 |
| （3）閉じこもり傾向 | 11 |
| （4）認知機能（物忘れ）の状況 | 17 |
| 2 うつの傾向 | 19 |
| 3 転倒リスクの状況 | 21 |
| 4 手段的日常生活動作（IADL） | 23 |
| 第4章 日常生活 | 25 |
| 1 交流の場への参加状況 | 25 |
| 2 たすけあいについて | 45 |
| 3 認知症に係る相談 | 53 |
| 第5章 健康・疾病 | 57 |
| 1 疾病 | 57 |
| 2 主観的健康感 | 70 |
| 第6章 介護 | |
| 1 介護・介助の状況 | 74 |

第1章 調査の概要

1 調査の目的

要介護状態になる前の高齢者について、

- ・要介護状態になる各種リスクの発生状況（心身の状態など）
- ・各種リスクに影響を与える日常生活の状況（生活習慣など）

などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的とする。

2 調査対象者

令和元年9月1日時点で市内在住の65歳以上の一般高齢者及び要支援者。

3 調査件数

2,000件

（ 一般高齢者：1,000件
要支援者：1,000件 ）

4 調査方法

郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。

5 調査項目

厚生労働省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」調査票の項目を使用。

※生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり、介護予防の推進等のために必要な社会資源の把握に資する項目35問。

6 調査実施期間

令和2年1月10日（金） ～ 令和2年1月31日（金）

7 回収状況

回答数：1,361件（回答率：68.1%）

（ 一般高齢者：662件（回答率：66.2%）
要支援者：699件（回答率：69.9%） ）

8 調査の企画・実施等

調査企画及び分析：北九州市保健福祉局介護保険課

調査実施及び集計：株式会社 サーベイリサーチセンター

9 集計・分析上の注意事項

- ・比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。また複数回答の設問については、合計は原則として100%を超える。
- ・クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
- ・基本的に日常生活圏域ごとに集計・分析している。

※日常生活圏域とは、住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、北九州市においては以下の24圏域が設定されている。

表 1-1 北九州市の日常生活圏域

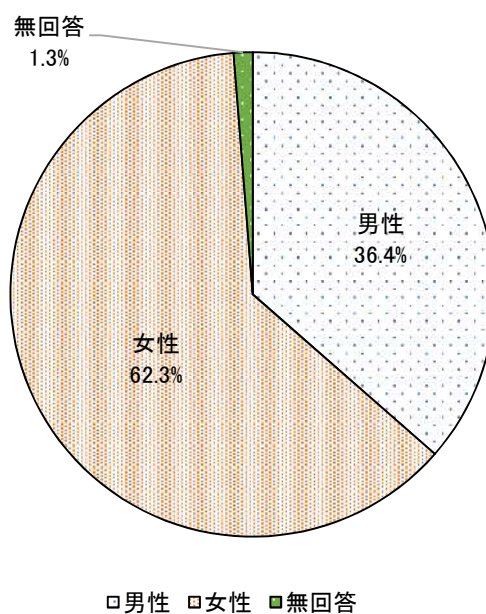
| 日常生活圏域 | 小 学 校 区(目安) |
|--------|----------------------------------|
| 門司 1 | 大積、白野江、柄杓田、松ヶ江北、松ヶ江南 |
| 門司 2 | 小森江東、田野浦、港が丘、門司海青、門司中央 |
| 門司 3 | 小森江西、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ヶ丘、藤松 |
| 小倉北 1 | 足原、霧丘(小倉南区を除く)、桜丘、寿山、富野 |
| 小倉北 2 | 藍島、足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、城野(小倉南区を除く) |
| 小倉北 3 | 到津、井堀、中井、西小倉、日明、高見(八幡東区を除く) |
| 小倉北 4 | 泉台、今町、清水、南丘(小倉南区を除く)、南小倉 |
| 小倉南 1 | 朽網、曾根、曾根東、田原、貫、東朽網 |
| 小倉南 2 | 葛原、高蔵、沼、湯川、吉田 |
| 小倉南 3 | 北方、城野(小倉北区を除く)、横代、若園、霧丘(小倉北区を除く) |
| 小倉南 4 | 企救丘、広徳、志井、徳力、長尾、守恒、南丘(小倉北区を除く) |
| 小倉南 5 | 市丸、合馬、長行、新道寺、すがお |
| 若松 1 | 赤崎、小石、修多羅、深町、藤木、古前、若松中央 |
| 若松 2 | 青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、ひびきの(八幡西区を除く) |
| 八幡東 1 | 祝町、枝光、高槻、高見(小倉北区を除く)、槻田、ひびきが丘 |
| 八幡東 2 | 大蔵、河内、皿倉、花尾(八幡西区を除く)、八幡 |
| 八幡西 1 | 赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞、ひびきの(若松区を除く) |
| 八幡西 2 | 永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝 |
| 八幡西 3 | 青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野 |
| 八幡西 4 | 黒畑、黒崎中央、筒井、鳴水、花尾(八幡東区を除く) |
| 八幡西 5 | 大原、上津役、塔野、中尾、八児 |
| 八幡西 6 | 池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘 |
| 戸畑 1 | あやめが丘、戸畑中央、中原 |
| 戸畑 2 | 一枝、大谷、鞆ヶ谷、天籟寺、牧山 |

第2章 回答者の属性

1 性別

| | 回答者数 | 構成比率 |
|-----|-------|-------|
| 男性 | 496 | 36.4% |
| 女性 | 848 | 62.3% |
| 無回答 | 17 | 1.3% |
| 全体 | 1,361 | 100% |

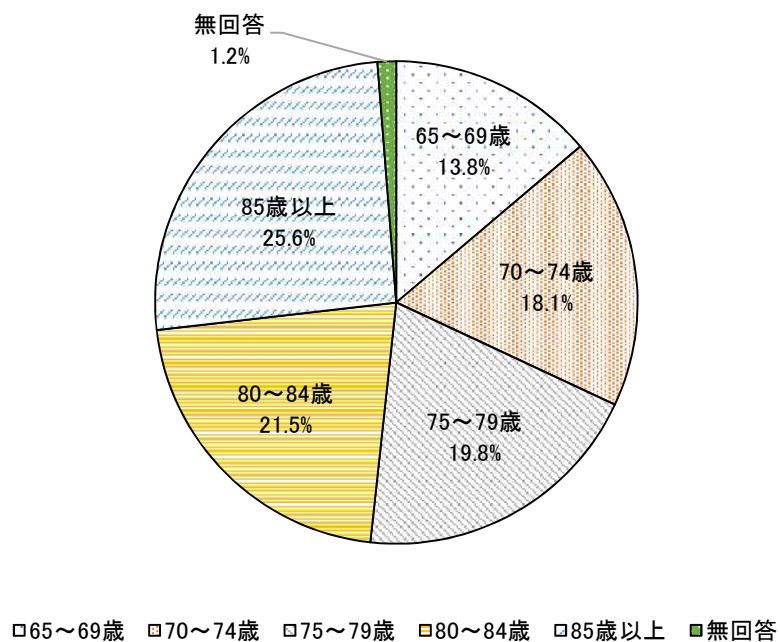
図2-1 性別



2 年齢

| | 回答者数 | 構成比率 |
|--------|-------|-------|
| 65～69歳 | 188 | 13.8% |
| 70～74歳 | 247 | 18.1% |
| 75～79歳 | 269 | 19.8% |
| 80～84歳 | 292 | 21.5% |
| 85歳以上 | 348 | 25.6% |
| 無回答 | 17 | 1.2% |
| 全体 | 1,361 | 100% |

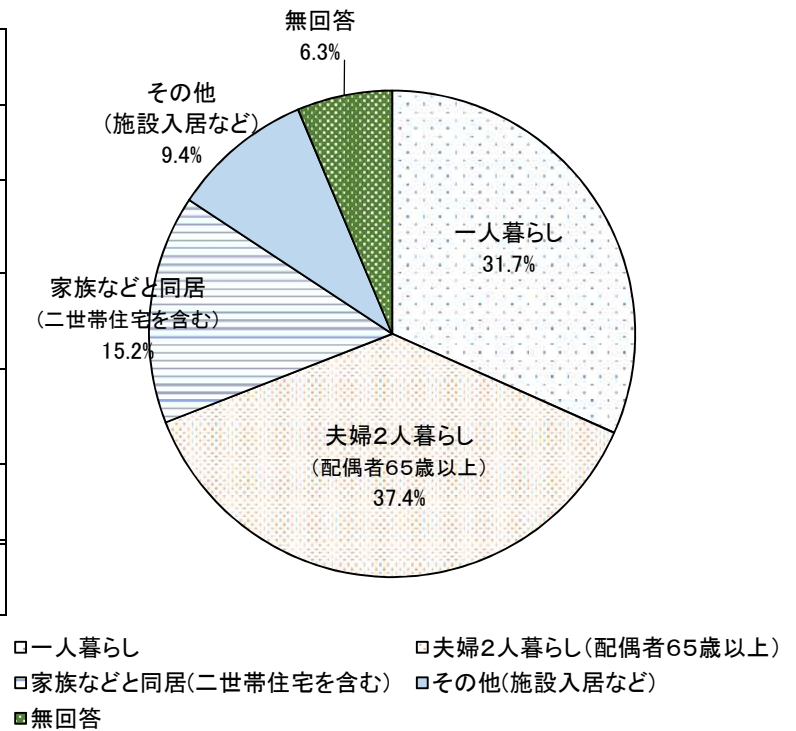
図2-2 年齢



3 家族構成

| | 回答者数 | 構成比率 |
|-----------------------|-------|-------|
| 一人暮らし | 431 | 31.7% |
| 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) | 509 | 37.4% |
| 家族など同居 (二世帯住宅を含む) | 207 | 15.2% |
| その他 (施設入居など) | 128 | 9.4% |
| 無回答 | 86 | 6.3% |
| 全体 | 1,361 | 100% |

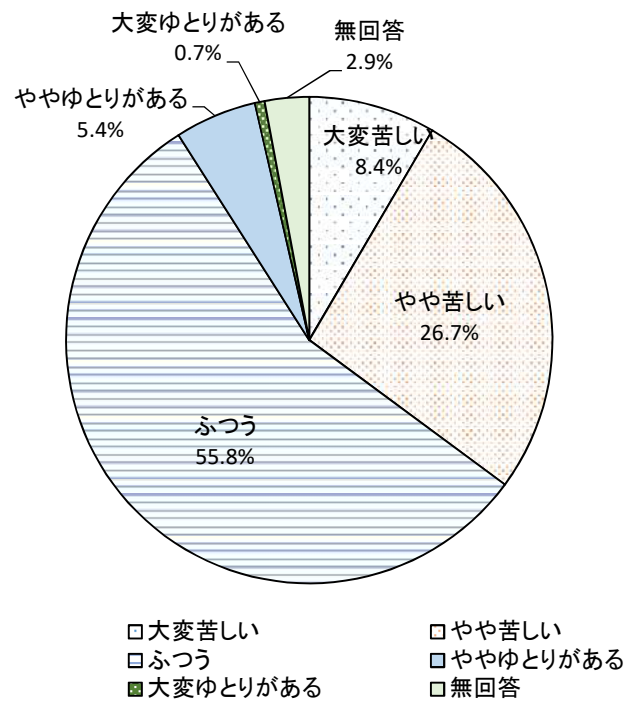
図2-3 家族構成



4 暮らし向き

| | 回答者数 | 構成比率 |
|----------|-------|-------|
| 大変苦しい | 115 | 8.4% |
| やや苦しい | 363 | 26.7% |
| ふつう | 760 | 55.8% |
| ややゆとりがある | 74 | 5.4% |
| 大変ゆとりがある | 9 | 0.7% |
| 無回答 | 40 | 2.9% |
| 全体 | 1,361 | 100% |

図2-4 暮らし向き



第3章 評価項目別の結果

1 生活機能

(1) 運動機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-1 に示した5つの設問に対する回答結果により、運動機能の低下のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 38.0%である。男女別にみると、男性が 28.6%、女性が 43.8%であり、女性の方が 15.2 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 64.4%が該当している。

図3-1-① 運動機能の状況【全域】

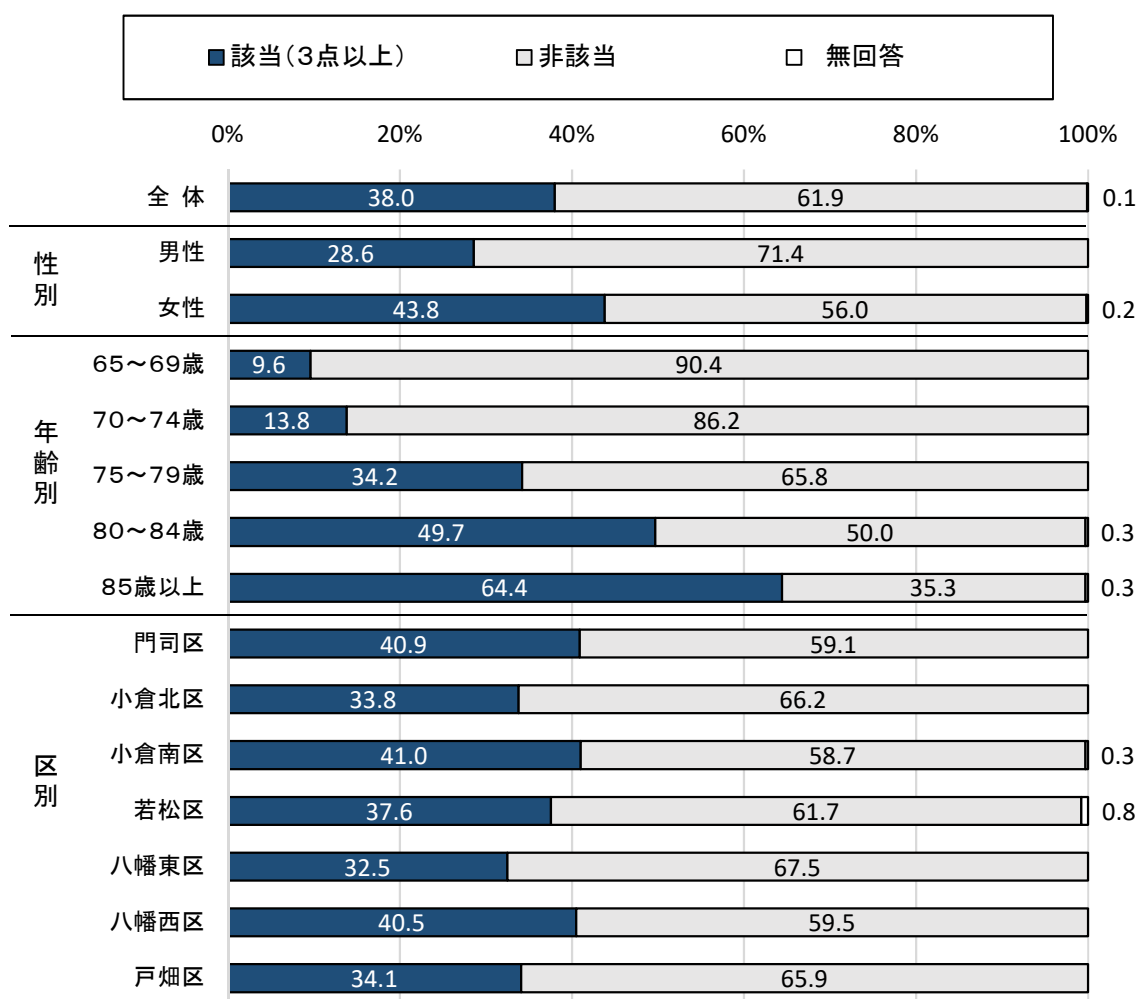


図3-1-② 運動機能の状況【日常生活圏域別】

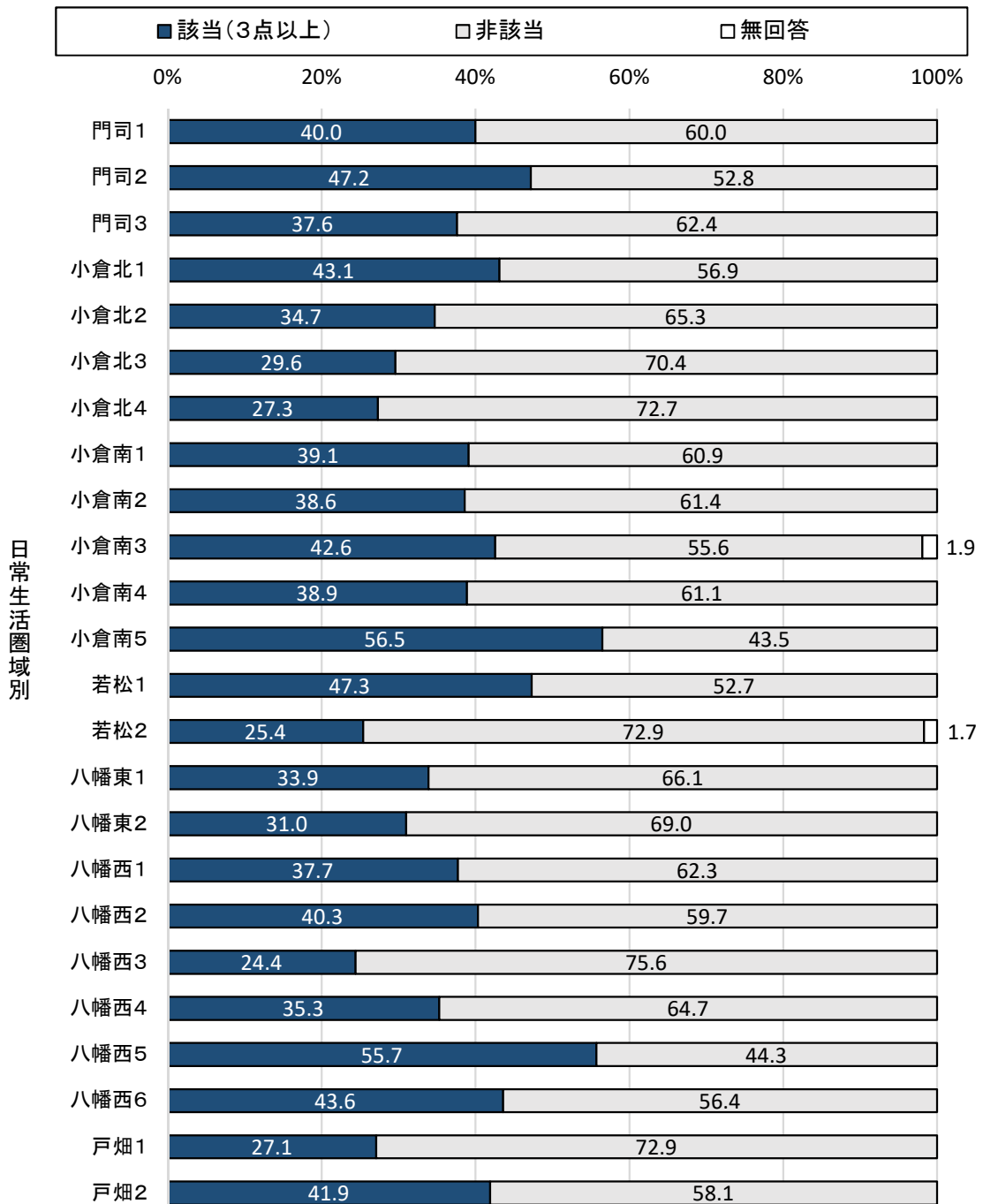


表 3-1 評価に用いた設問と評価基準(運動機能の状況)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|------------------------------|---------|-----------------|
| 問 2-Q1 | 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか | いいえ(1点) | 3点以上が リスク該当者 |
| 問 2-Q2 | 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | いいえ(1点) | |
| 問 2-Q3 | 15分位続けて歩いていますか | いいえ(1点) | |
| 問 2-Q4 | 過去1年間に転んだ経験がありますか | はい(1点) | |
| 問 2-Q5 | 転倒に対する不安は大きいですか | はい(1点) | |

(2) 口腔機能の状況

ア 咀嚼機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-2 に示した設問に対する回答結果により、咀嚼機能の低下リスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 43.7%である。男女別にみると、男性が 41.8%、女性が 45.2%であり、女性の方が 3.4 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 54.6%で最も高くなっている。

図3-2-① 咀嚼機能の低下【全域】

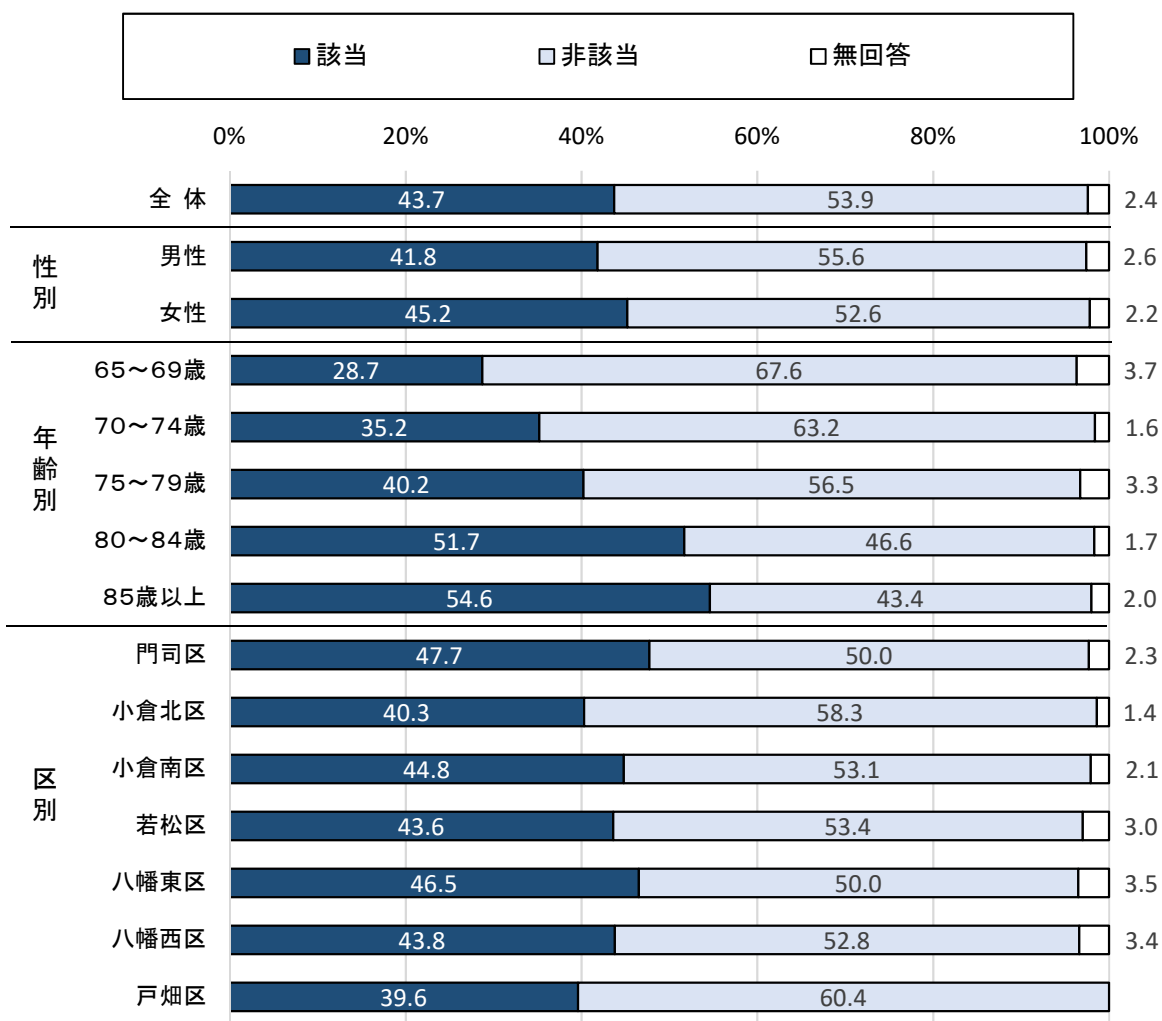


図3-2-② 咀嚼機能の低下【日常生活圏域別】

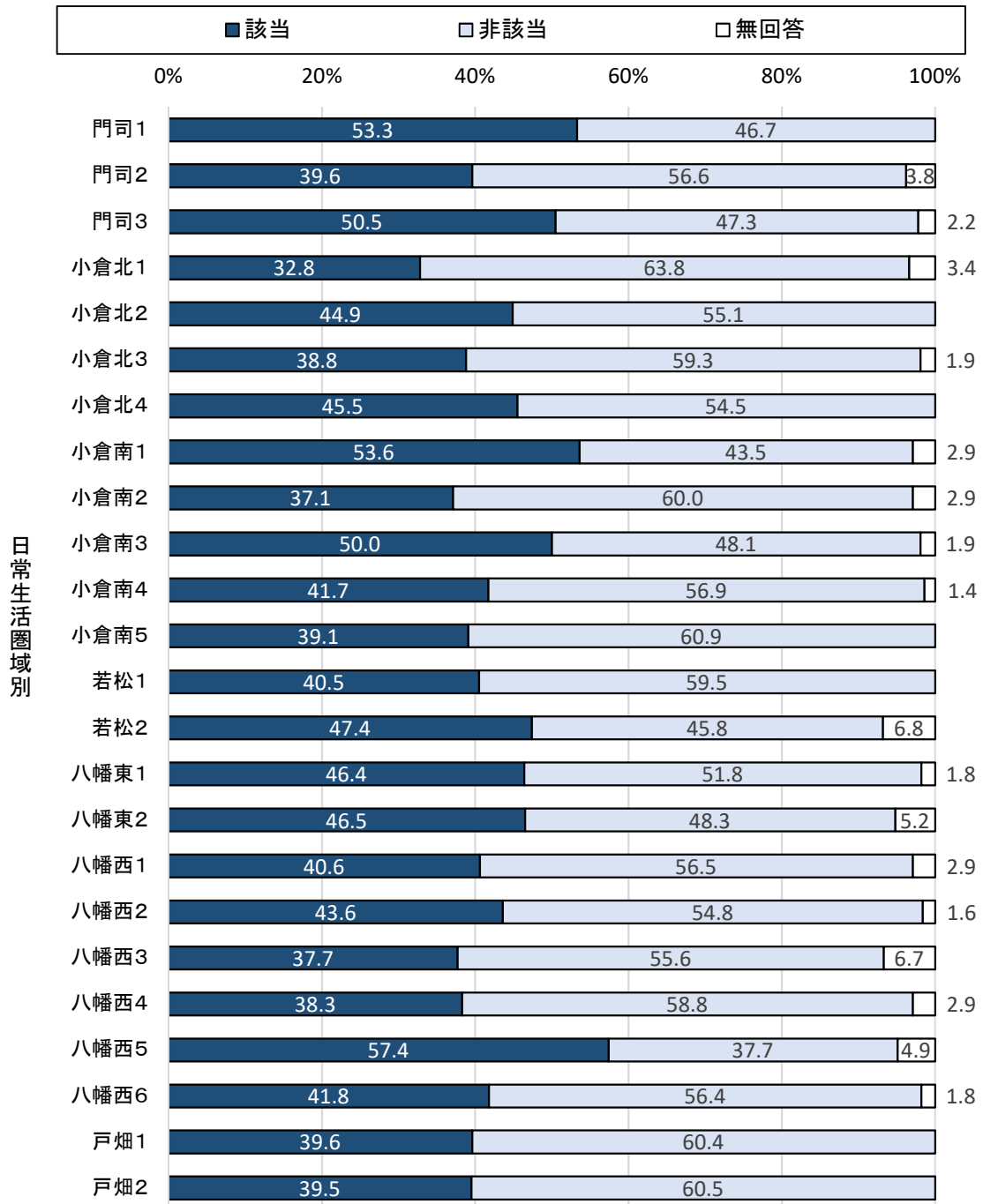


表 3-2 評価に用いた設問と評価基準(咀嚼機能の低下)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|-----------------------|--------|---------------|
| 問 3-Q2 | 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか | はい(1点) | 1点で リスク該当者 |

イ 義歯の有無と歯数

問3-Q3 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

自分の歯の数と入れ歯の利用状況を尋ねたところ、市全体でみると「歯数は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が44.8%で最も高く、次いで「歯数は20本以上、入れ歯の利用なし」28.1%、「歯数は20本以上、かつ入れ歯を利用」13.3%、「歯数は19本以下、入れ歯の利用なし」9.8%の順となっている。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、「歯数が19本以下」の割合が高くなり、「歯数が20本以上」の割合が低くなっている。

図3-3-① 歯の数と入れ歯の利用状況【全域】

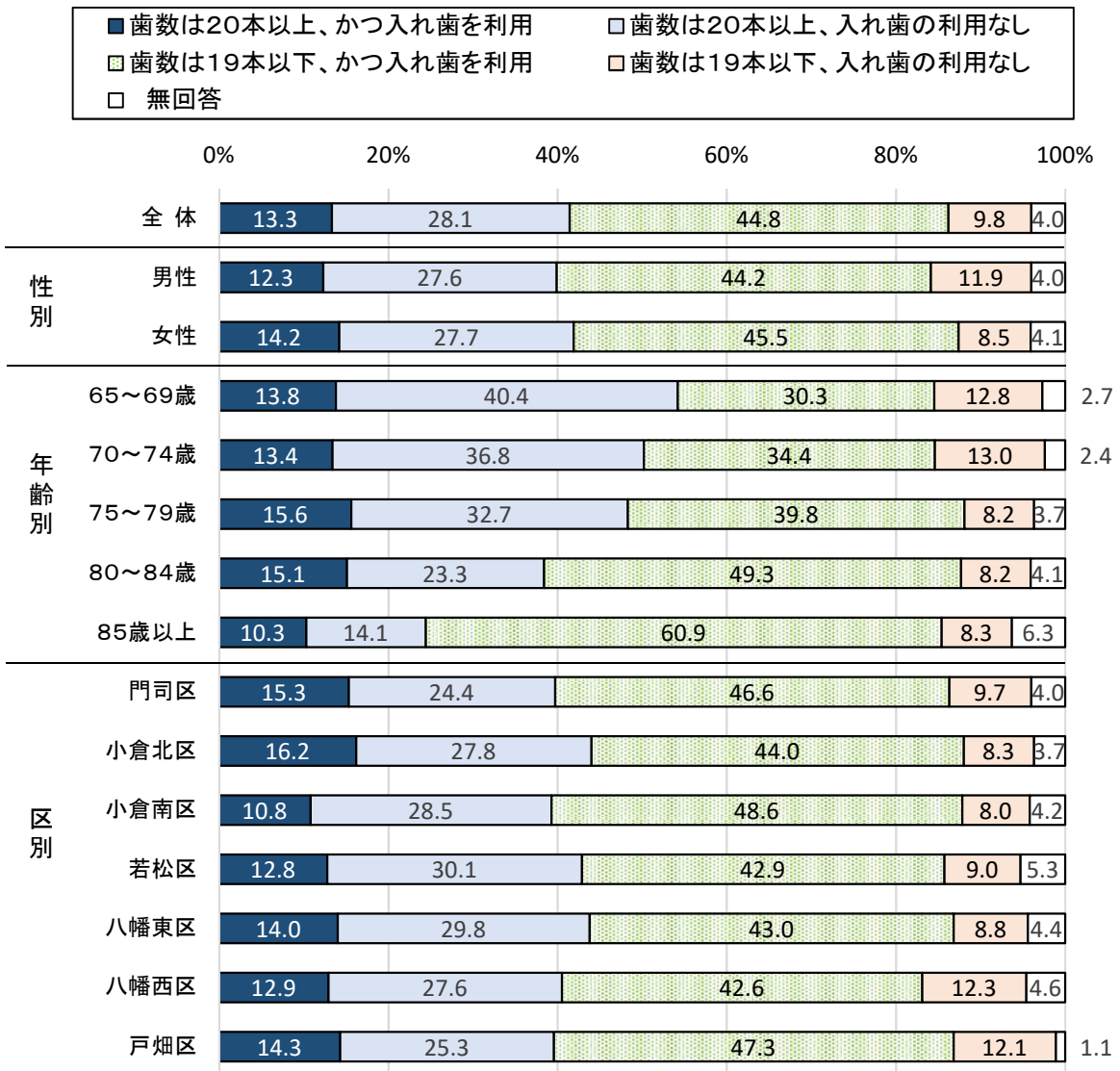
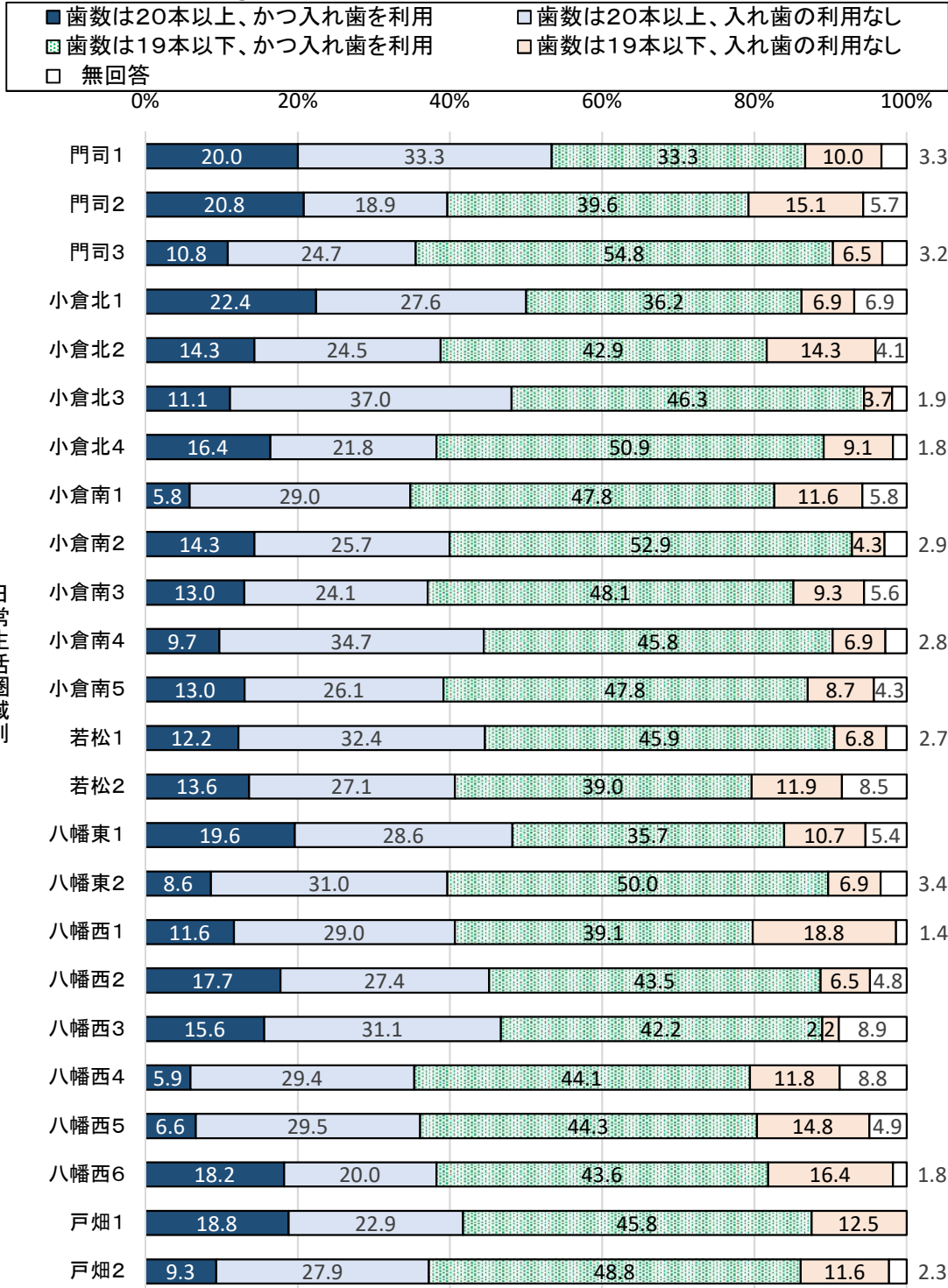


図3-3-② 歯の数と入れ歯の利用状況【日常生活圏域別】



(3) 閉じこもり傾向

ア 外出の機会

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-4 に示した設問に対する回答結果により、閉じこもりになるリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 25.6%である。男女別にみると、男性が 22.2%、女性が 27.5%であり、女性の方が 5.3 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 46.3%で最も高くなっている。

図3-4-① 閉じこもり傾向 【全域】

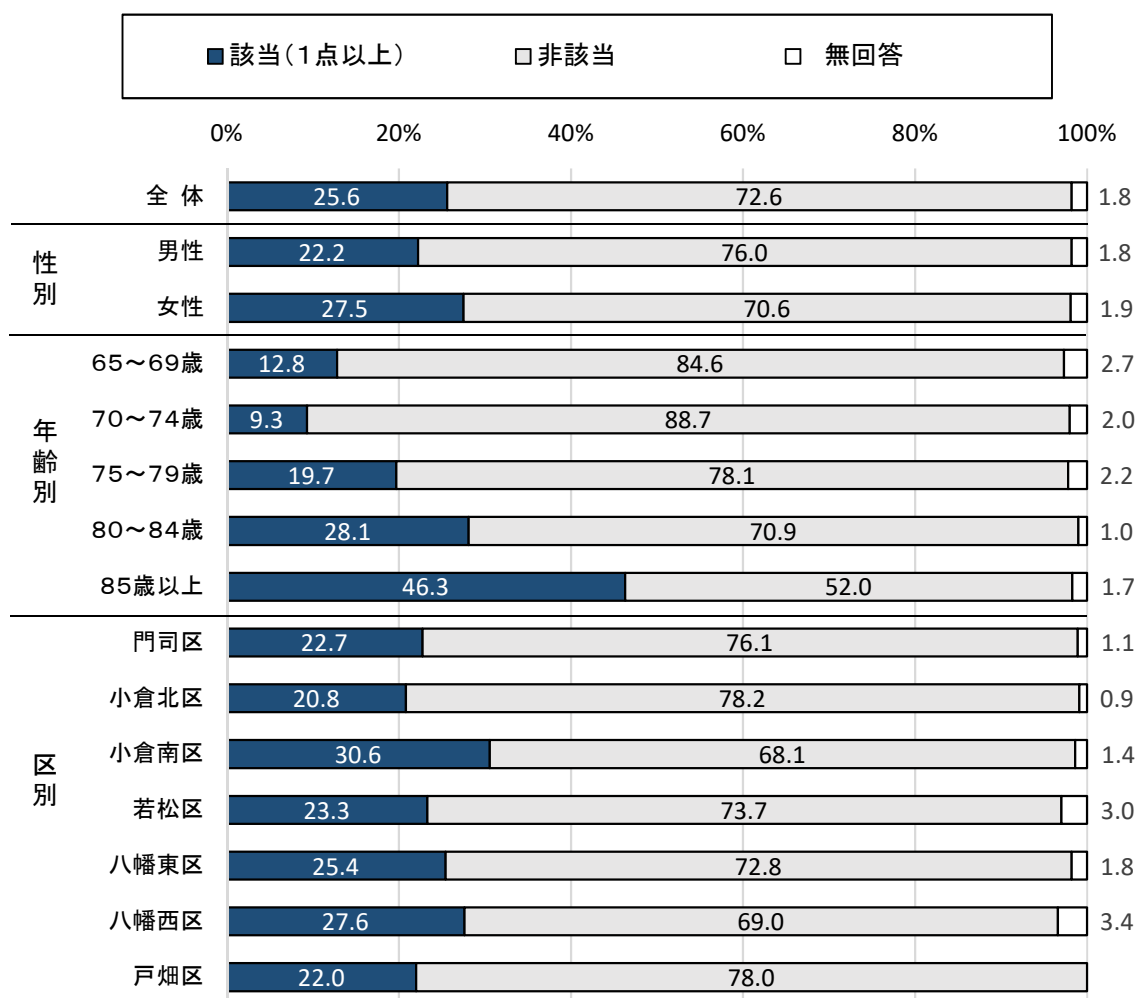


図3-4-② 閉じこもり傾向 【日常生活圏域別】

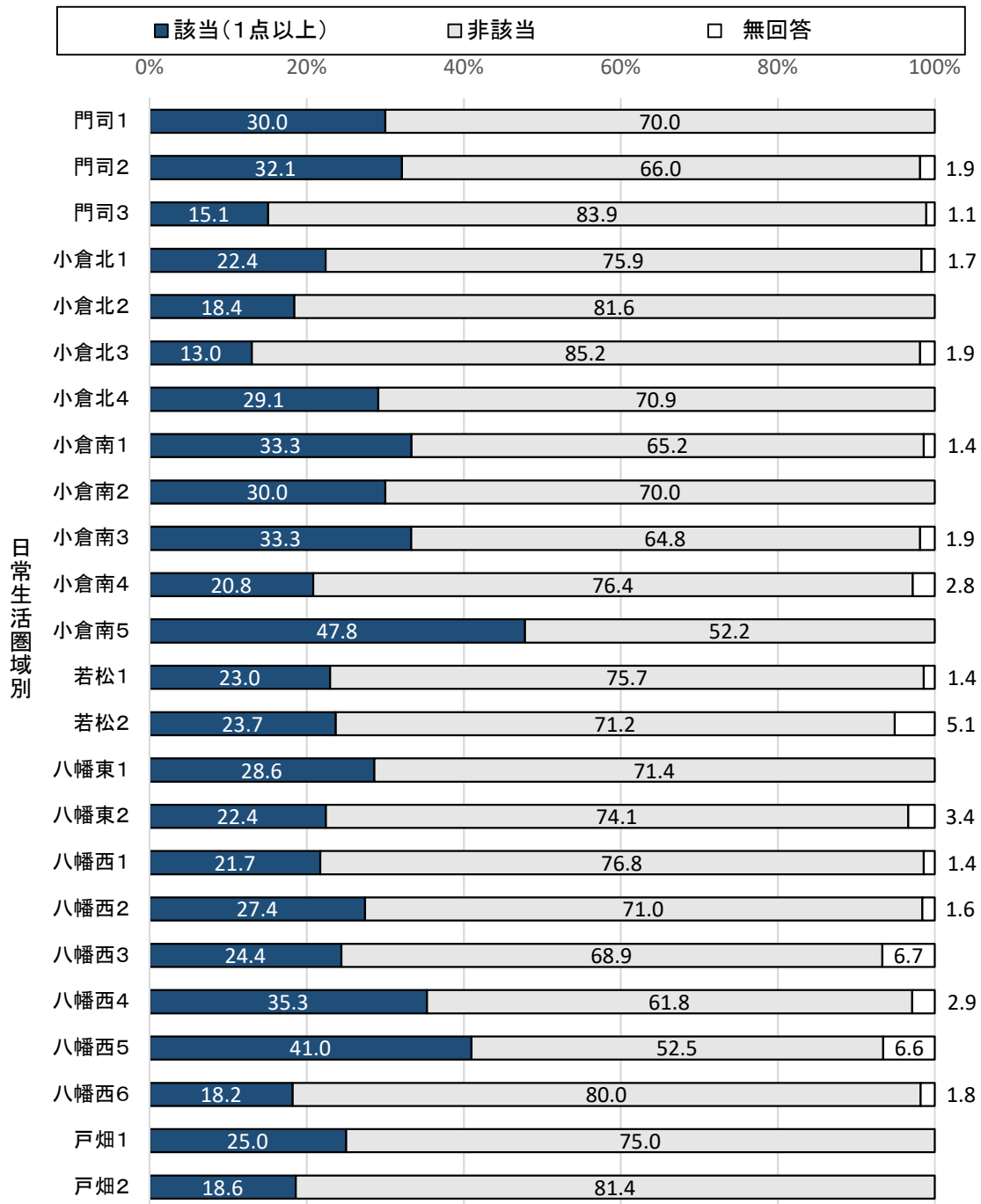


表 3-4 評価に用いた設問と評価基準(閉じこもり傾向)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|-----------------|-----------|---------------|
| 問 2-Q6 | 週に1回以上は外出していますか | 週1回以下(1点) | 1点で リスク該当者 |

イ 外出回数の減

問2-Q7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかを尋ねたところ、市全体でみると「減っている」と回答した割合が71.6%となっている。「減っている」割合を男女別にみると、男性が64.9%、女性が75.4%となっており、女性の方が10.5ポイント高い。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、「減っている」の割合が高くなり、85歳以上が86.8%で最も高くなっている。

図3-5-① 外出回数の減【全域】

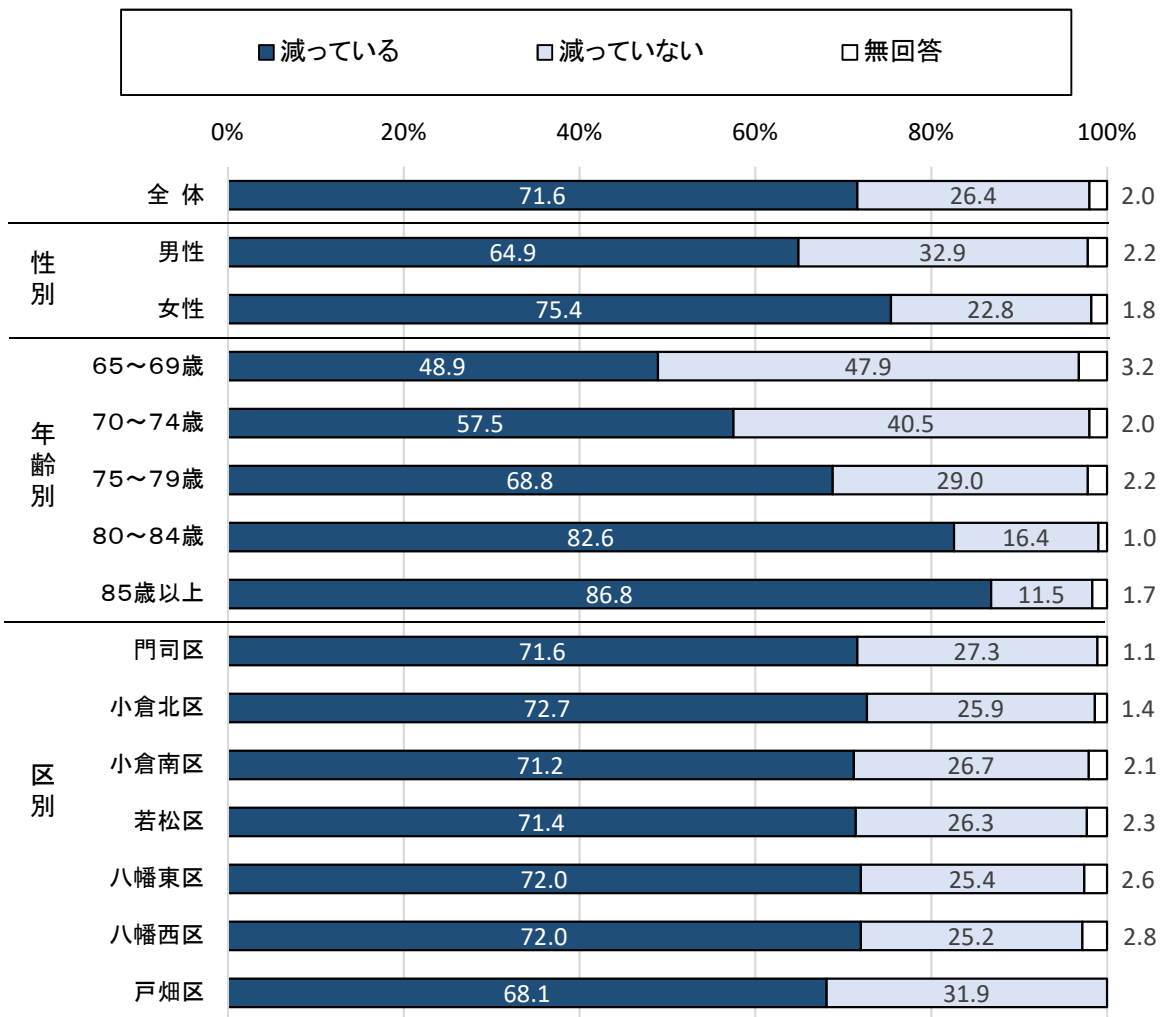
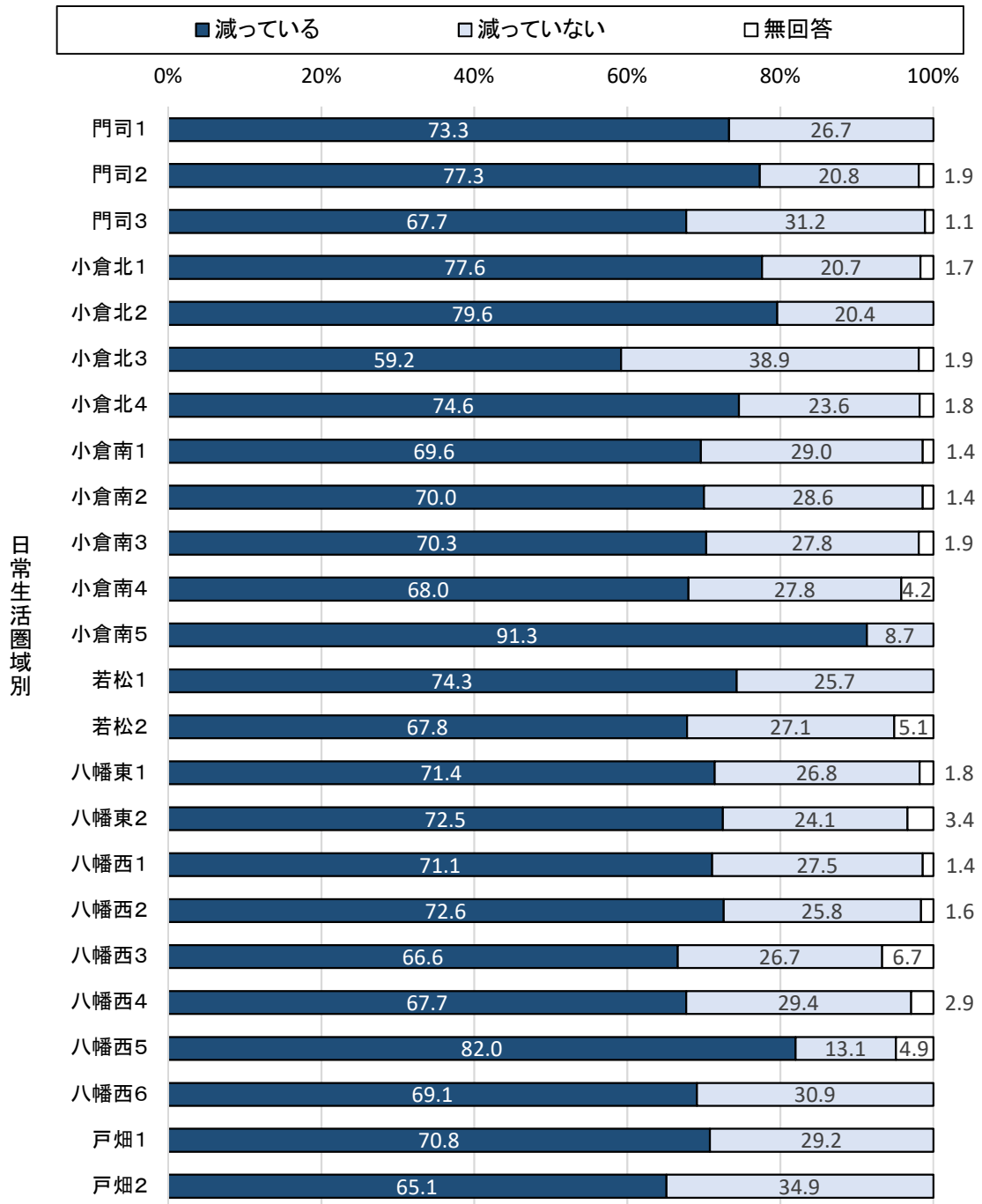


図3-5-② 外出回数の減【日常生活圏域別】



ウ 食事を共にする機会

問3-Q4 どなたかと食事を共にする機会がありますか。

誰かと食事を共にする機会があるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「ある」と回答した割合が86.9%となっている。この割合を男女別にみると、男性が84.1%、女性が88.4%となっており、女性の方が4.3ポイント高い。これを年齢別にみると、70～74歳が90.3%で最も高くなっている。

図3-6-① 食事を共にする機会【全域】

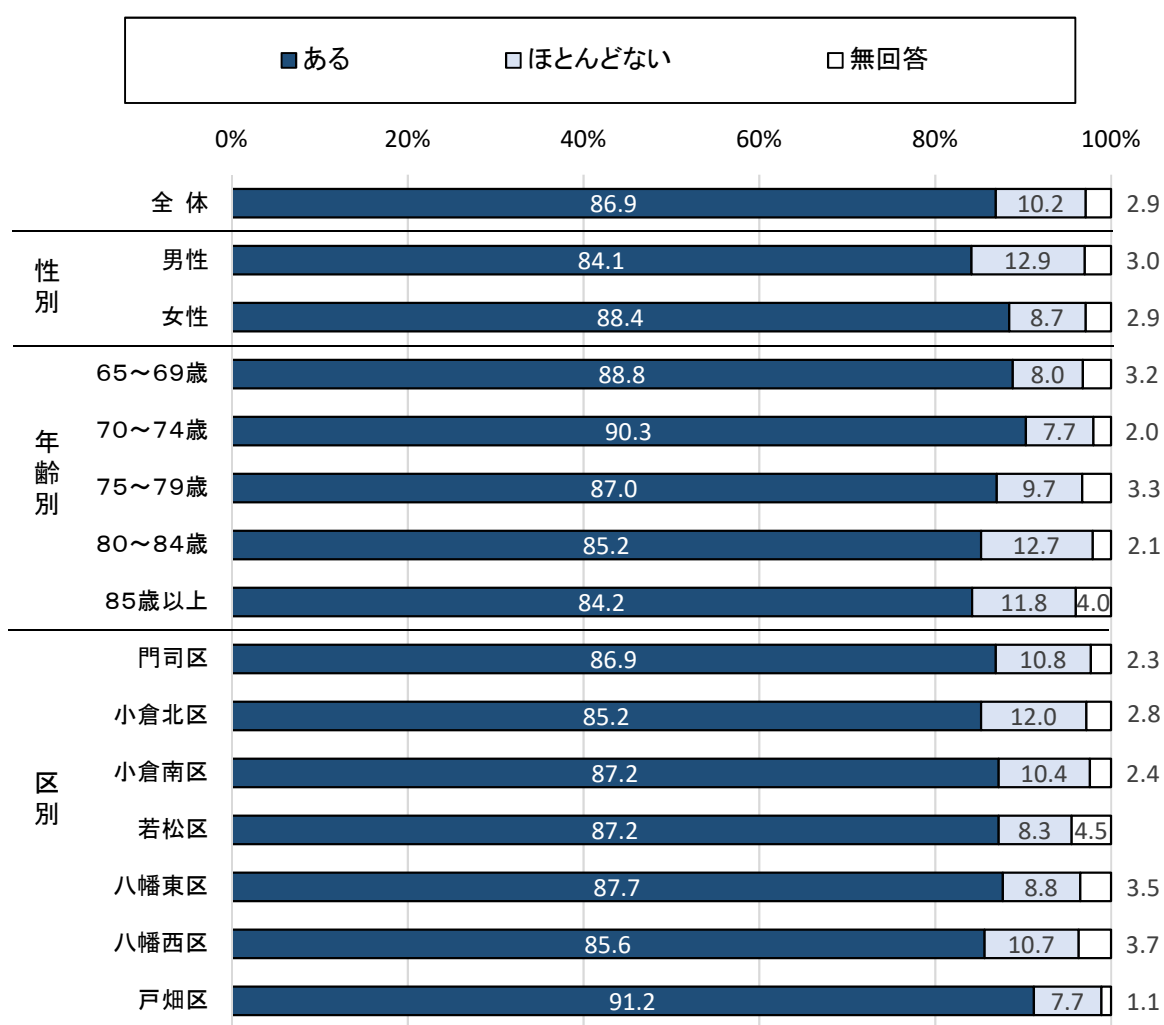
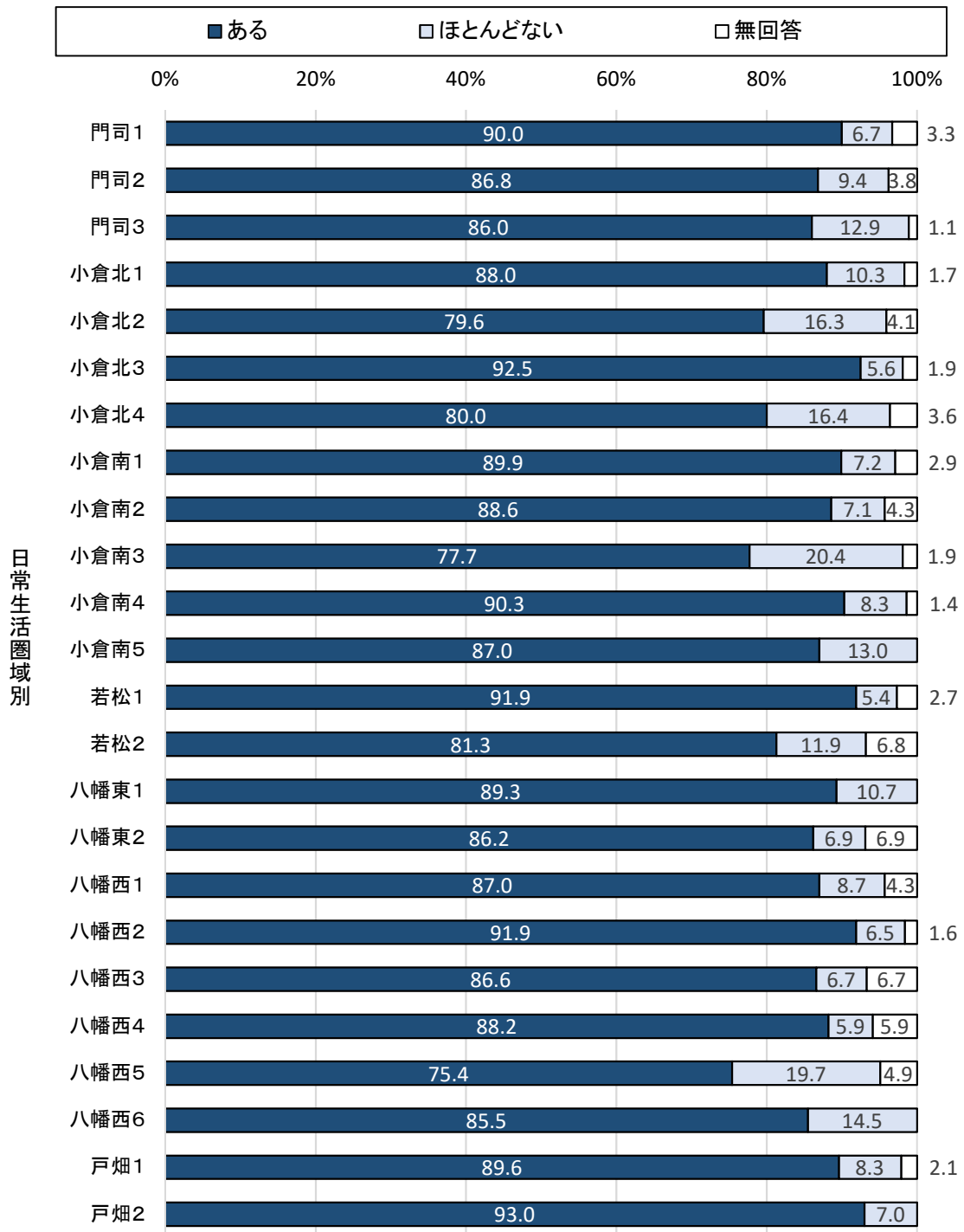


図3-6-② 食事を共にする機会【日常生活圏域別】



(4) 認知機能（物忘れ）の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-7 に示した設問に対する回答結果により、認知機能の低下（物忘れ）のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 51.3%である。男女別にみると、男性が 48.0%、女性が 53.5%であり、女性の方が 5.5 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 59.8%で最も高くなっている。

図3-7-① 認知機能の低下(物忘れ)【全域】

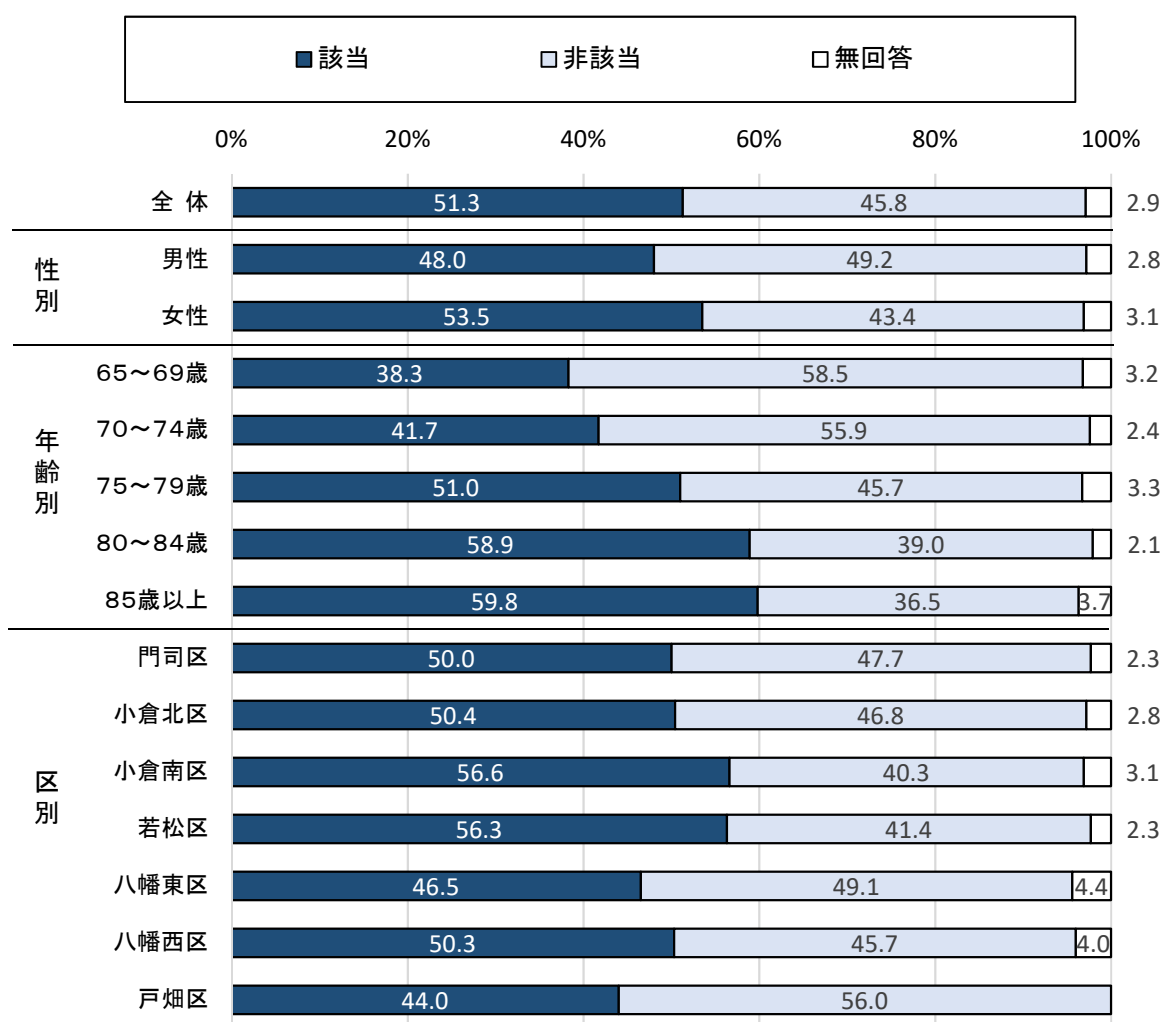


図3-7-② 認知機能の低下(物忘れ)【日常生活圏域別】

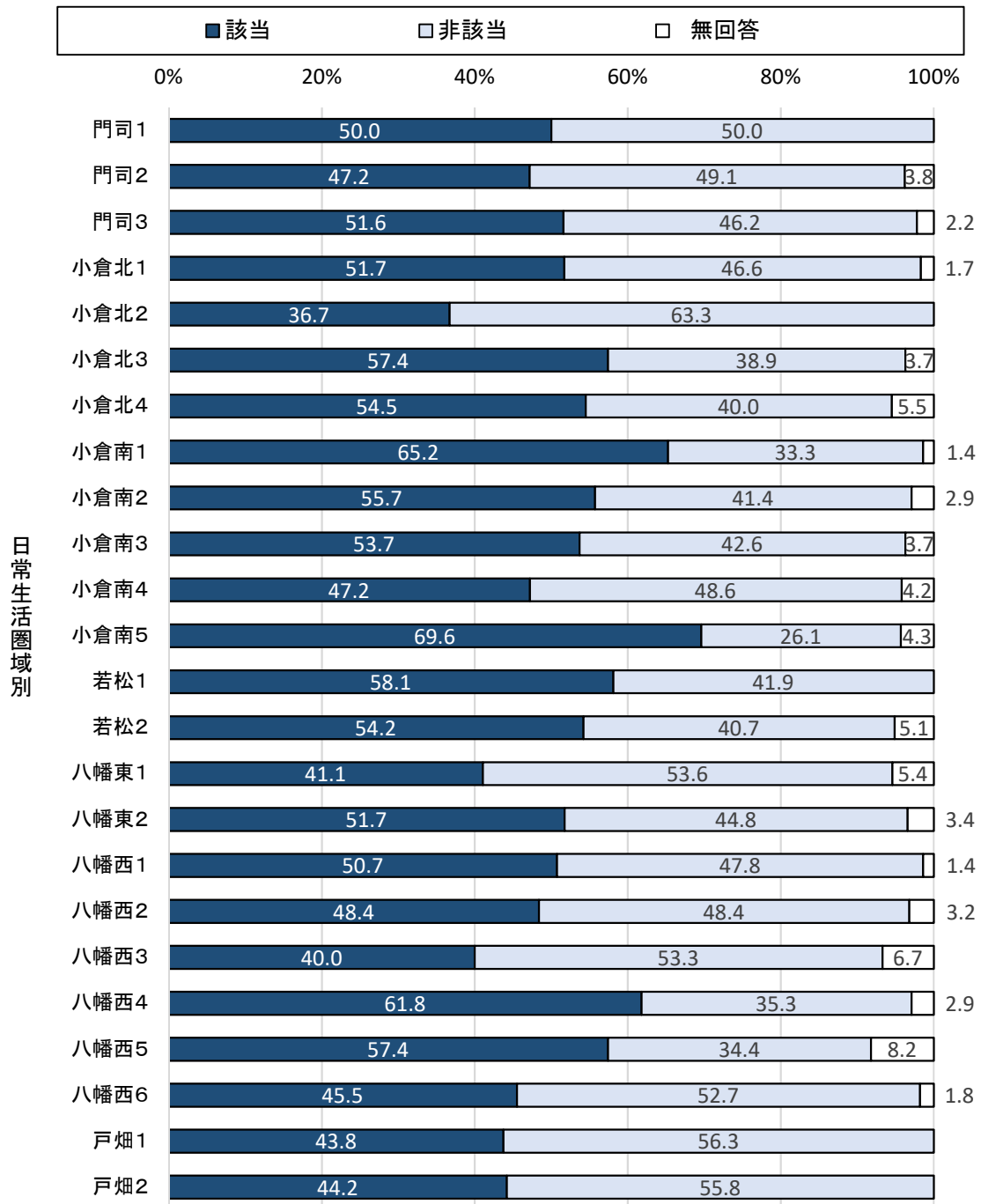


表 3-7 評価に用いた設問と評価基準(認知機能の低下(物忘れ))

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|--------------|--------|---------------|
| 問 4-Q1 | 物忘れが多いと感じますか | はい(1点) | 1点で リスク該当者 |

2 うつの傾向

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-8 に示した設問に対する回答結果により、うつの傾向のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 48.6%である。男女別にみると、男性が 48.8%、女性が 48.6%であり、ほぼ同じ割合となっている。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっている。

図3-8-① うつ予防判定 【全域】

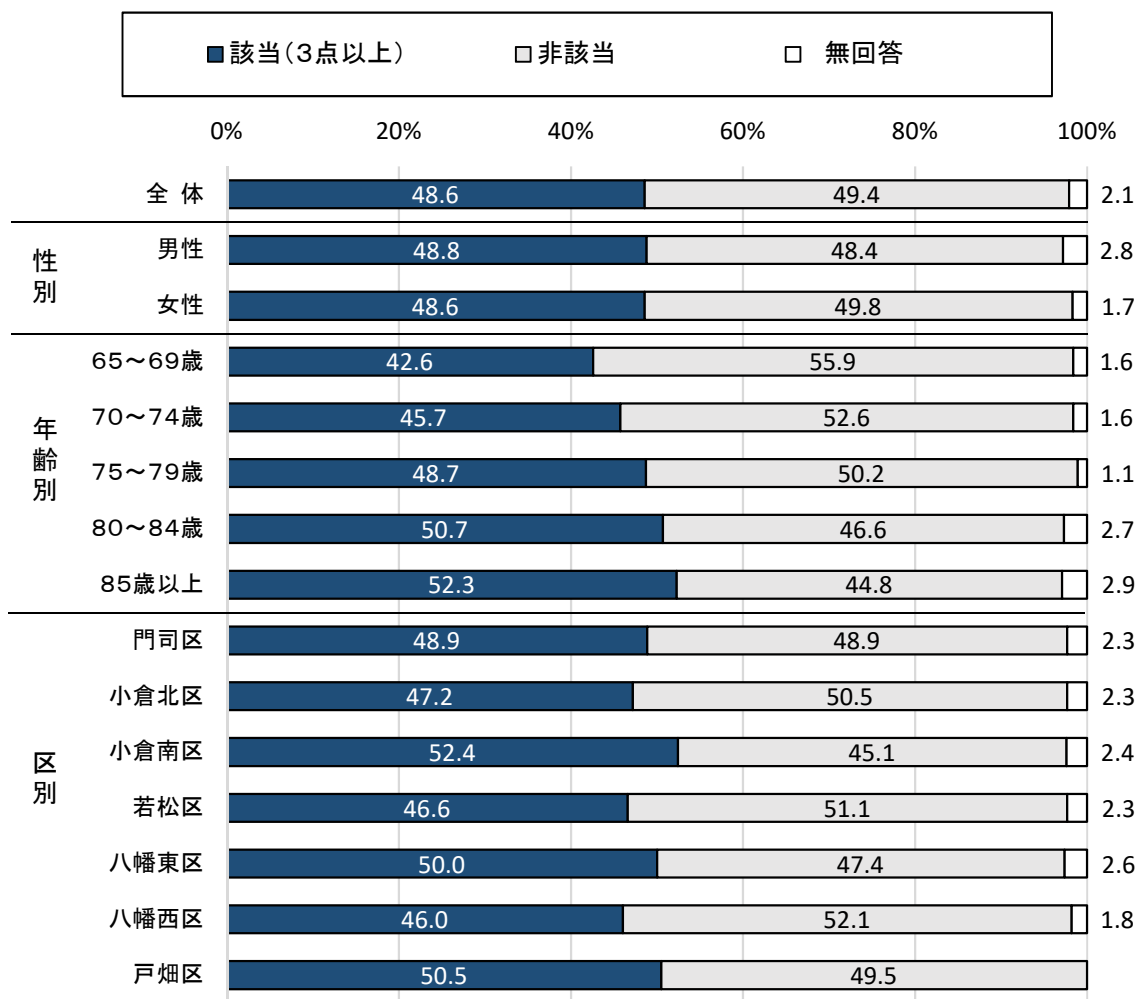


図3-8-② うつ予防判定【日常生活圏域別】

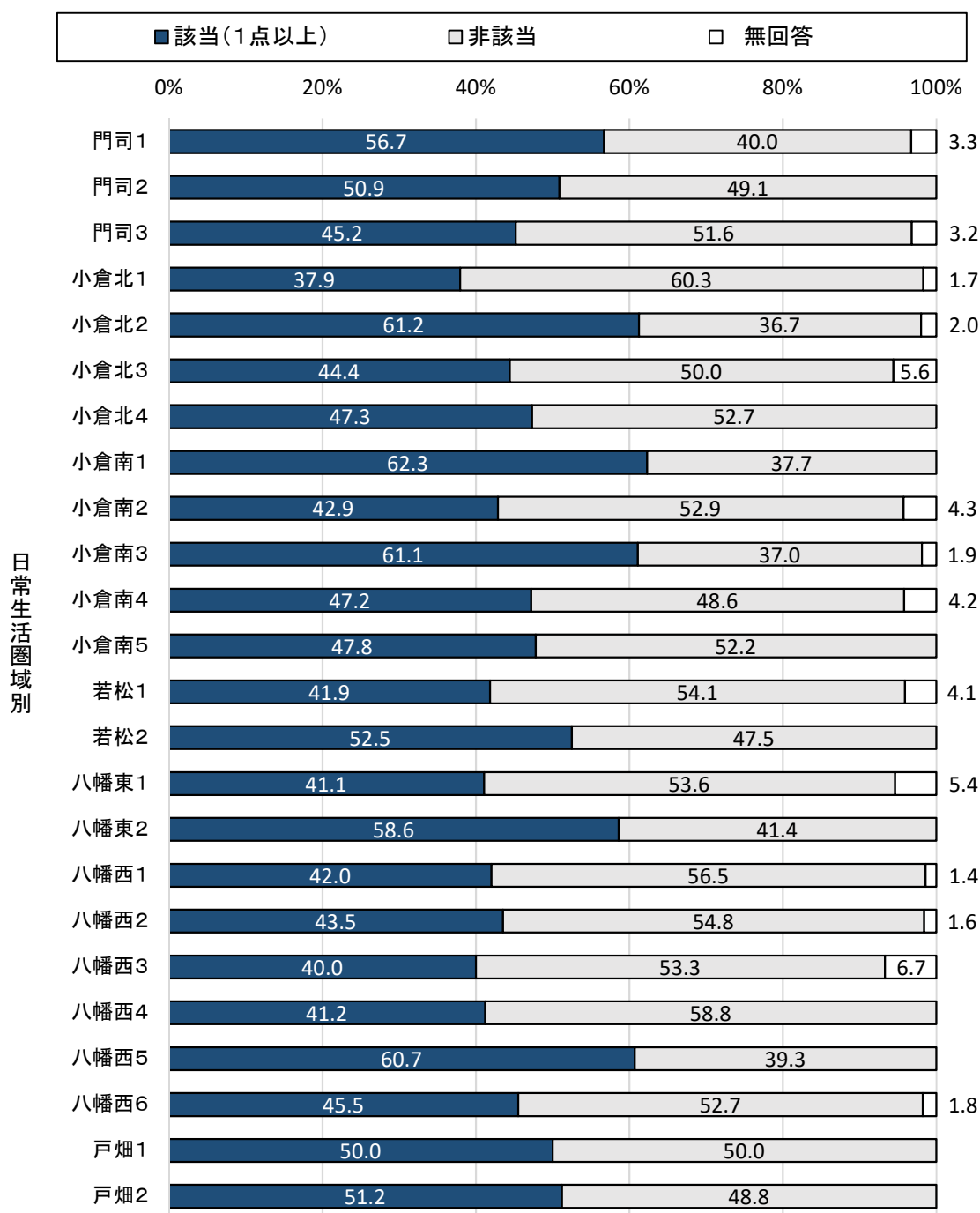


表 3-8 評価に用いた設問と評価基準(うつの傾向)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|---|--------|---------------|
| 問 7-Q3 | この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか | はい(1点) | 1点で リスク該当者 |
| 問 7-Q4 | この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか | はい(1点) | |

3 転倒リスクの状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-9 に示した設問に対する回答結果により、転倒のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 47.5%である。男女別にみると、男性が 45.4%、女性が 48.6%であり、女性の方が 3.2 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 62.6%が該当している。

図3-9-① 転倒リスク判定 【全域】

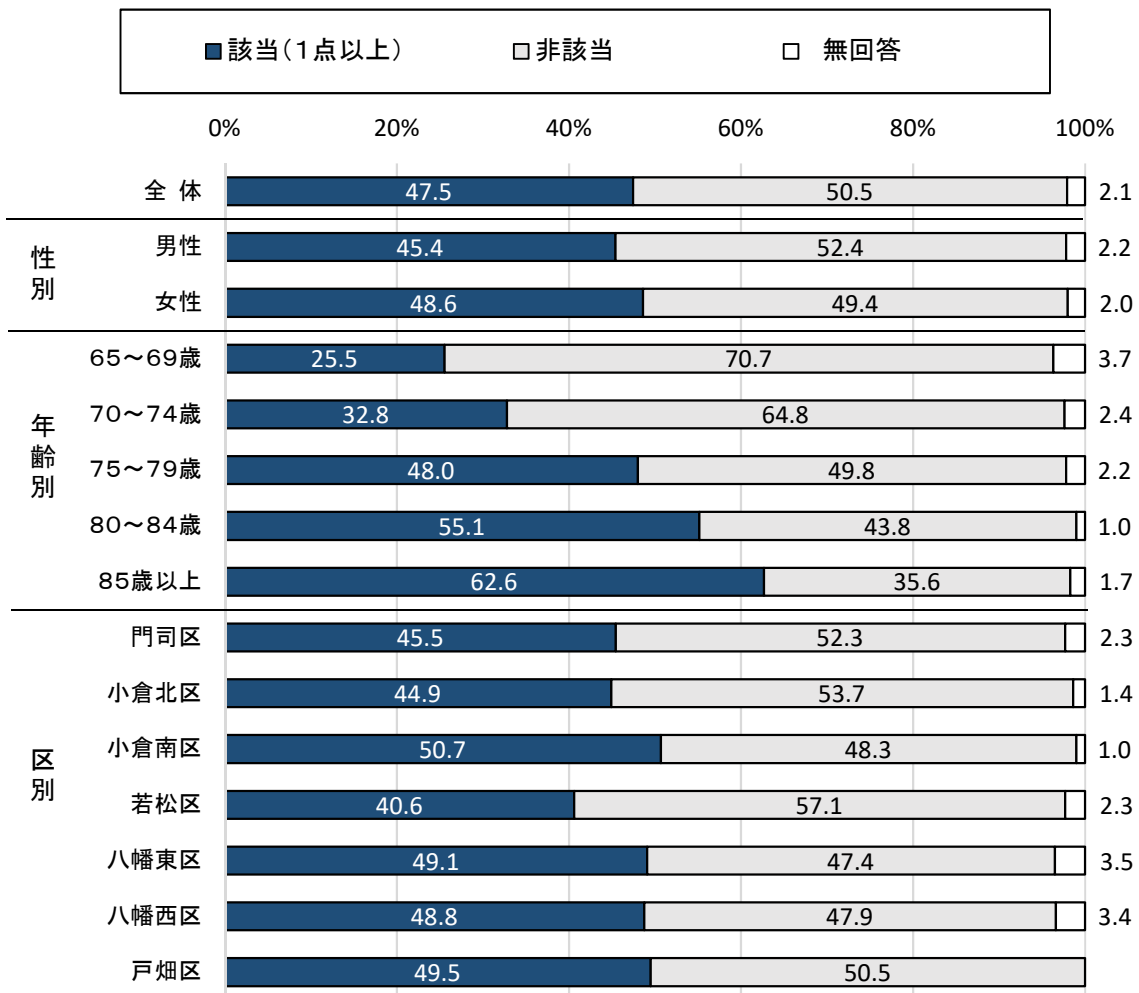


図3-9-② 転倒リスク判定 【日常生活圏域別】

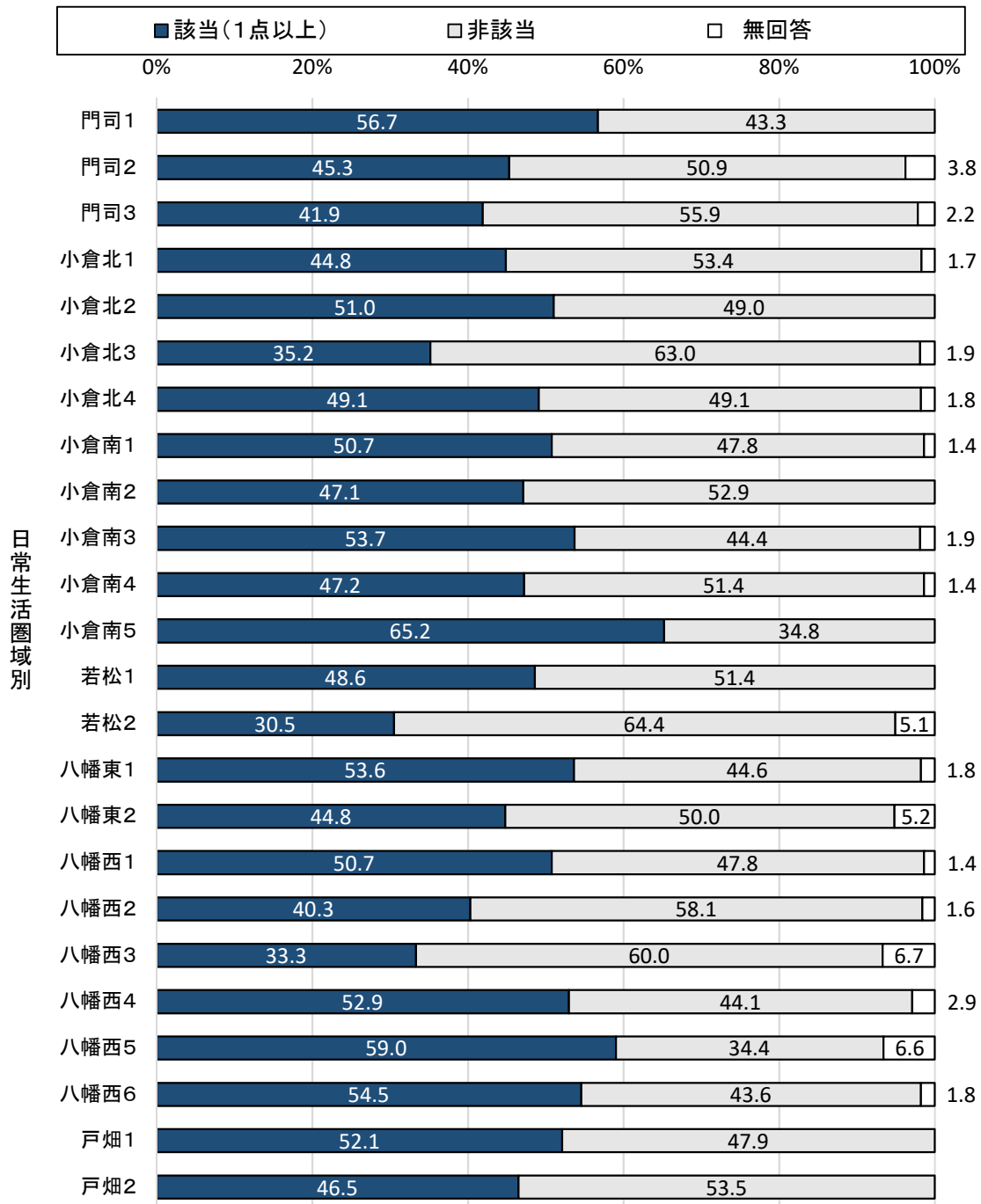


表 3-9 評価に用いた設問と評価基準(転倒リスクの状況)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|---------------------|--------|------------------|
| 問 2-Q4 | 過去 1 年間に転んだ経験がありますか | はい(1点) | 1 点以上が リスク該当者 |
| 問 2-Q5 | 転倒に対する不安は大きいですか | はい(1点) | |

4 手段的日常生活動作（IADL）

本調査には、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が含まれている。

このうち、活動的な日常生活を送るための動作（バスに乗って買い物に行く、食事の支度を
する、電話をかけるなど）の能力を指す「手段的日常生活動作（IADL：Instrumental
Activities of Daily Living）」について、表 3-10 に示した5つの設問に対する回答結果
により評価を行った。

市全体でみると、能力が「高い」人の割合が 68.6%を占めている。一方、「低い」は 15.8%、
「やや低い」は 14.0%で、これらを合わせた割合は 29.8%である。男女別に「低い」と「や
や低い」を合わせた割合をみると、男性が 32.2%、女性が 27.9%であり、男性の方が 4.3 ポ
イント高い。これを年齢別にみると、85 歳以上が 48.6%で最も高くなっている。

図3-10-① 手段的自立度(IADL) 【全域】

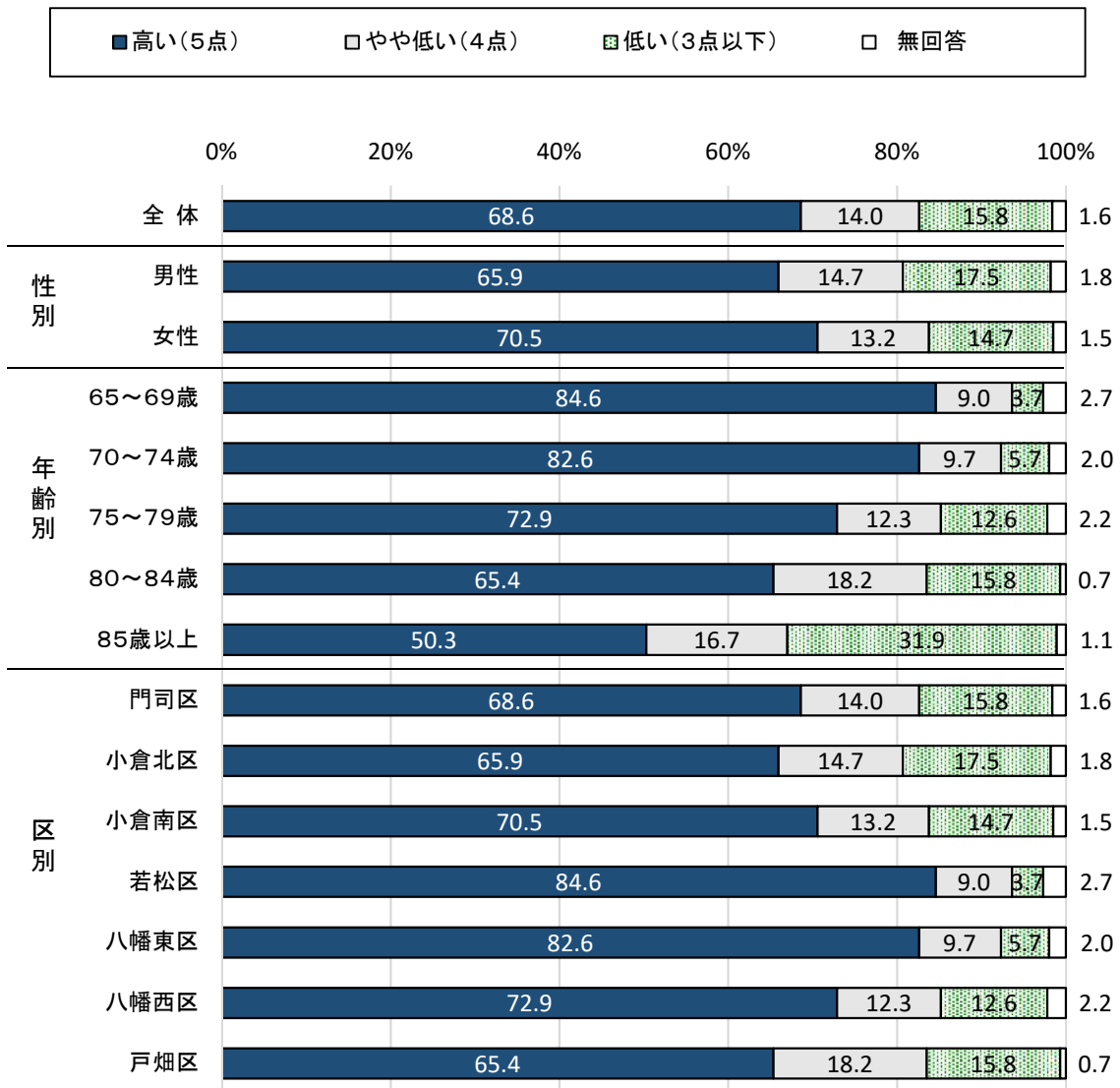


図3-10-② 手段的自立度(IADL)【日常生活圏域別】

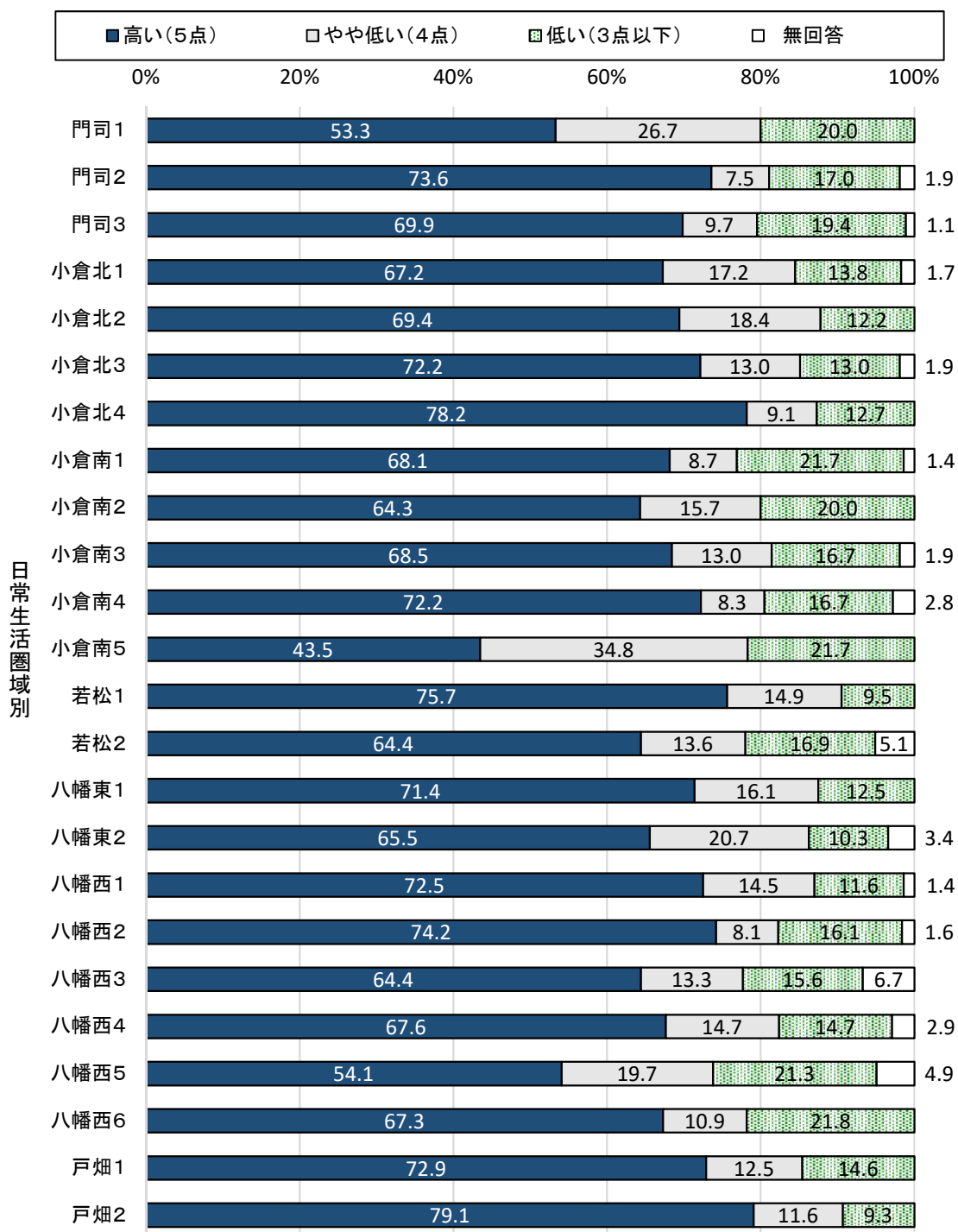


表 3-10 評価に用いた設問と評価基準 (IADL)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|--------|--------------------------------|---------------|--------------------------------|
| 問 4-Q2 | バスや電車を使って 1人で外出していますか(自家用車でも可) | できるし、している(1点) | 「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点 |
| 問 4-Q3 | 自分で食品・日用品の買物をしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 4-Q4 | 自分で食事の用意をしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 4-Q5 | 自分で請求書の支払いをしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 4-Q6 | 自分で預貯金の出し入れをしていますか | できるし、している(1点) | |